

ほんがいっぱい よんでみよう！



ねんせい ほん 3・4年生のための本

① 『チビにいちゃんとOちゃん』

エディス=ウンネルスタッド／文
こみやゆう やく 小宮由／訳 さこももみ／絵 瑞雲社《AFウ》

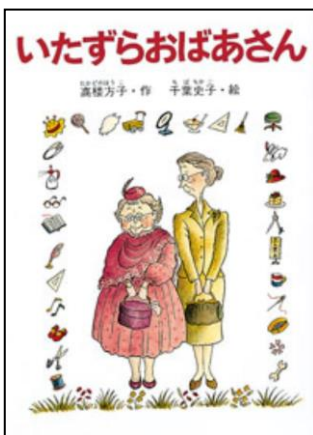
チビにいちゃんは、七人きょうだいの下から二ばん目。妹のOちゃんといつもさわがしくしているので、ふたりの部屋は〈ニワトリ小屋〉とよばれています。ある雨の日、ふたりが外に出られなくてたいくつしていると、チビにいちゃんが「ボートにのろう！」といいだして…。



② 『いたずらおばあさん』

たかどのほうこ さく ちばちかこ／絵 フレーベル館《Fタ》

エラババ先生は八十四歳。とてもえらい洋服研究家です。ある日、先生は一まい着ると一歳わかくなる服を発明しました。それを弟子のヒョコルさんとたくさん着て、ふたりは八歳の女の子に大変身！つぎつぎといたずらをはじめます。



ところざわ しりつところざわ としょかん
所沢市立所沢図書館 2024年

③ 『そんなのうそだ！』

ジーン・メリル／作 小宮由／訳
さかぐち ゆか こ え いわなみしよてん
坂口友佳子／絵 岩波書店《AFメ》

なまけもののサルとブタとキツネは、ごうかな服をきたイヌに、ほらばなしで勝負をもちかけました。負けたものは、勝ったもののけらいになって、なんでもいうことをきかなければなりません。三びきは、イヌのごうかな服をうばおうとかんがえますが…。



④ 『A Iマスクはいかがですか？』

あかはね 赤羽じゅんこ／作 たんじあきこ／絵
かん フレーベル館《Fア》

リナは大きな声を出すのがにがて。ある日、ふしぎなピエロから、ひとつ三千円もするマスクをもらった。それは『ハキハキA Iマスク』というもので、つけるだけで明るくハキハキとした声で話せる。でも、心のなかで思ったことも、ハキハキ声に変わってしまい…。



⑤ 『ちびドラゴンのおくりもの』

イリーナ・コルシュノフ／作 酒寄進一／訳
いとうひろし え こくとしや
伊東寛／絵 国土社《AFコ》

ハンノーはおくびょうな男の子。ともだちもいないし、学校なんか大きらい。ある日、公園の地面にいたずらがきをすると、へんなやつが顔を出した。それは、ドラゴンの国からきた、おちこぼれのちびドラゴンだった！



⑥『ねえねえ、きょうのおはなしは…』

せかい たの
世界の楽しいむかしばなし』
おおつかゆうぞう さいわ やく ペイアコ が ふくいんかんしよてん
大塚勇三／再話・訳 PEIACO／画 福音館書店《M》

そうげん
草原にいる よくふとったロバを食べてく
なつたキツネとオオカミ。そこで、ロバをだ
まして オリーブの実をつみこんだ舟につれこみ、
うみ 海のまんなかで食べてしまおうとするが…。(「小
ぶね 舟にのったロバ」より) ほかにもゆかいな話、楽
しい話がたくさん!



⑦『おおきくなりすぎたくま』

リンド・ワード／文・画
わたなべしげお やく 渡辺茂男／訳 ほるぷ出版《E7》

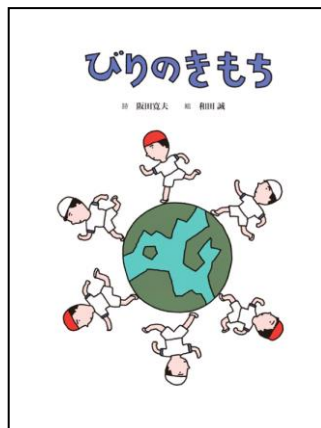
ジョニーは、森から ちいさなこぐまをつれ
てかえりました。やがて こぐまはおおきくな
り、家や畑をあらしはじめました。もう家には
おいておけません。ところが くまは、森へかえ
しても すぐに もどってきてしまいます。とう
とうジョニーは…。



⑧『びりのきもち』

さかたひろお し わだまこと え どうわかんしゅつぱん
阪田寛夫／詩 和田誠／絵 童話館出版《91.1》

みんなは、びりのきもちがわかるかな? びり
になるってどんなかな? びりになったらどう
しよう…。『びりのきもち』のほかにも、「ちこ
く王」「しょっぱい海」「おとなマーチ」など、
みんなのきもちにピッタリの詩がいっぱい!



⑨『夏の小川にかがやく宝石、オニヤンマ』

なつ おがわ ほうせき
つついまなぶ しやしん ぶん しょうがくかん
筒井学／写真と文 小学館《48》

オニヤンマは、日本でいちばん大きなトン
ボ。小さなえものは飛びながら食べ、時にはセ
ミやスズメバチまで、強いあごで食べてしまう
んだ。でも、オニヤンマの卵はたった1ミリ。
小さな卵からどうやって大きくなるのかな?



⑩『しんかい6500』

やまもとしょうぞう さく ともなが え くもん出版《55》
山本省三／作 友永たろ／絵

深さ6500メートルの海の底は人類にとって
未知の世界。人をのせて潜れる「しんかい6500」
は今日も深海にふる雪を浴びながらゆっくり
と海の底へ潜り続ける。熱水をふきだす煙突が見
えたら調査を開始する。のぞく窓の先に金属のう
ろこをつけた貝を見つけた!



⑪『コブシメがやってきた!』

たかくいたる しやしん ぶん かん
高久至／写真・文 アリス館《48》

屋久島の海にいるコブシメは、イカのなか
ま。まわりのように合わせて、からだの形や
色をくるくる変える 海の忍者です。コブシメ
は どんなくらしをしているのでしょうか?



⑫『黒部の谷の小さな山小屋』

ほしのひでき しやしん ぶん かん
星野秀樹／写真・文 アリス館《78》

黒部の谷底に立つ 小さな山小屋では、7月な
かから10月のおわりまでお客さんを受け入れ
ている。山小屋は冬の前に屋根やかべをはずして
しまっておき、夏になると建て直すんだ。なぜこ
んなことをするのだろうか?

